

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語、算数、理科、児童質問調査)

中学校 第3学年(国語、数学、理科、生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 82人

② 算数 82人

③ 理科 82人

5 留意事項

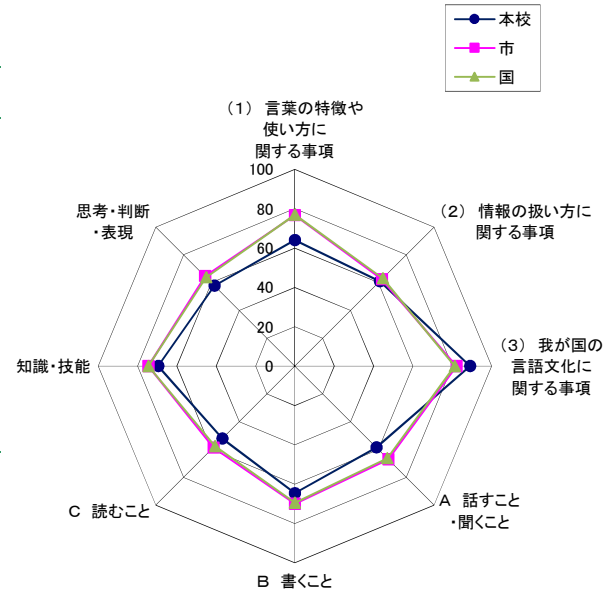
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.0	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	61.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	89.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	58.5	67.0	66.3
	B 書くこと	64.6	70.0	69.5
	C 読むこと	52.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	69.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	57.8	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

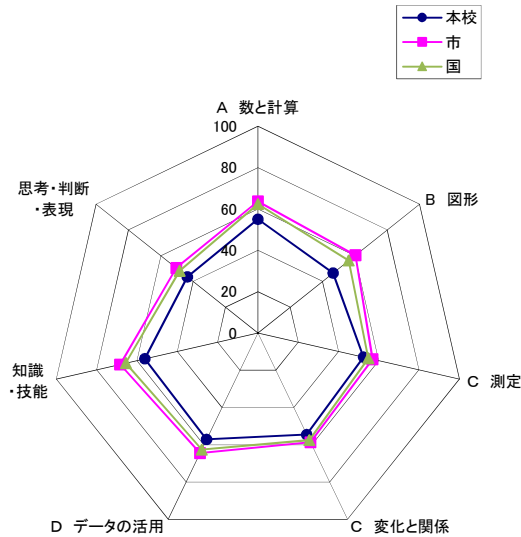
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	●本領域の正答率は64.0%で、全国の正答率を12.9ポイント下回った。 ●「文中の『あつい』を漢字で書き直す。」の正答率は54.9%で、全国の正答率を17.2ポイント下回った。また、無解答率は9.8%であり、全国の平均より5.5ポイント高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を習得するために、既習の漢字を正確に書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けさせるとともに、当該学年に配当されている漢字を文や文章の中で使うよう指導する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○本領域の正答率は61.0%で、全国の正答率と同程度である。 ○「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。」の正答率は61.0%で、全国の正答率と同程度である。	・図表やグラフ、写真や挿絵などを、文章と結び付けながら読み取れることを意識させる。図表と文章のどの部分が結び付くのかを明らかにできるよう指導する。 ・図表やグラフ、メモなどから必要な情報を読み取り、活用する力は国語に限らず、他教科でも必要とされる能力であるので、教科横断的に学力の定着を図っていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○本領域の正答率は89.0%で、全国の正答率を7.8ポイント上回った。 ○「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる。」の正答率は89.0%で、全国の正答率を7.8ポイント上回った。	・言葉には、時間の経過によって変化したものと気付くことができるよう、伝統的な言語文化に触れる機会を増やす。 ・それぞれの世代によって特有の言葉の違いがあることや、それらが世代間の親近感やつながりを強める役割をもつことを理解させる。また、時と場合に応じた言葉の違いが必要であることを理解できるよう指導を行っていく。
A 話すこと・聞くこと	●本領域の正答率は58.5%で、全国の正答率を7.8ポイント下回った。 ○「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。」の正答率は73.2%で、全国の正答率と同程度である。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる。」の正答率は56.1%で、全国の正答率を15.7ポイント下回った。	・自分はどういった情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにどのような情報を相手に引き出そうとしているのかなどを明確にして、聞く力が必要である。各教科における授業等でペア活動や話し合い活動を行う際には、自分の考えを発表するだけでなく、意図をもって相手の話を聞くよう声掛けを行っていく。
B 書くこと	●本領域の正答率は64.6%で、全国の正答率を4.9ポイント下回った。 ●「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。」の正答率は56.1%で、全国の正答率を7.4ポイント下回った。	・図表や資料から集めた材料を、書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を整理したりすることが、伝えたいことを明確にすることや書き表し方を工夫することに、どのようにつながるかを発見する力を養う必要がある。文章を書く際に、簡潔な内容で終わらないよう自分の考えを書き出して整理する活動を取り入れ、自分の考えに肉付けを行うことを習慣化させていく。
C 読むこと	●本領域の正答率は52.1%で、全国の正答率を5.4ポイント下回った。 ●「目的に応じて、文章の図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。」の正答率は51.2%で、全国の正答率を5.1ポイント下回った。また、無解答率は20.7%で、全国の無解答率より4.5ポイント高い。	・目的に応じて文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理や、再構成をしたりする際には、読む目的を明確にする必要がある。国語の授業では、何を聞かれているのかを確認し、理解してから文章を再度読むように声掛けを行っていく。 ・文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びつくのかを明らかにすることができるよう、思考の時間を積極的に設けるようにする。 ・パンフレットや新聞など、多様な形態の文章を読んで内容を捉える活動に取り組みせるとともに、読んで分かったことを自分の言葉でまとめたり、自分の考えを書いたりする活動にも取り組ませる。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.0	63.6	62.3
	B 図形	46.6	60.4	56.2
	C 測定	52.4	56.9	54.8
	C 変化と関係	54.5	58.6	57.5
	D データの活用	57.1	64.4	62.6
観点	知識・技能	56.1	68.3	65.5
	思考・判断・表現	43.6	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

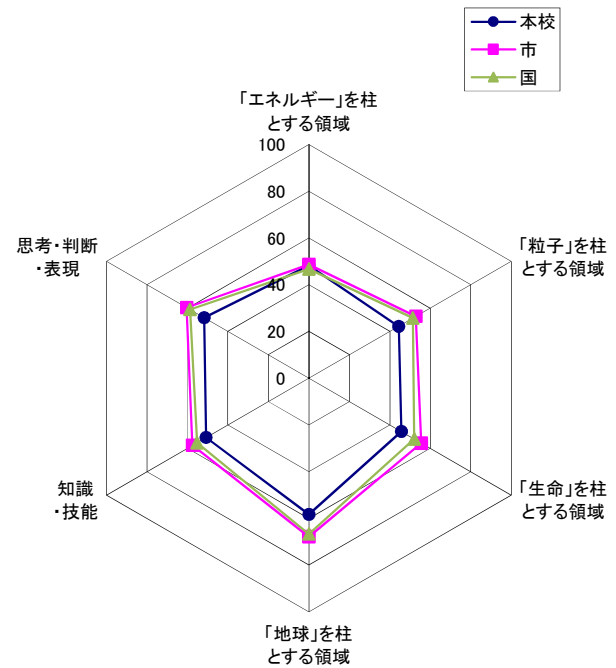
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●本領域の正答率は55.0%で、全国の前年比を7.3ポイント下回った。 ○数と計算に関する問題のうち、2問の無解答率が全国の無解答率より低い。 ●「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる。」の正答率は54.9%で、全国の前年比を19.2ポイント下回った。 ●「分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。」の無解答率は28.0%で、全国の前年比より12.3ポイント高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数や分数のたし算やひき算などを正確に計算することができるようにしていく。 ・0.1や1/10などを単位として、それぞれの小数や分数がそのいくつ分かを考えることで、整数のたし算やひき算と同じように計算できることを確認していく。また、授業の中で意見を伝える時間を設けるなどして、児童が自分の言葉で計算の仕方を説明することができるようにしていく。
B 図形	●本領域の正答率は46.6%で、全国の前年比を9.6ポイント下回った。 ○図形に関する問題の多くは無解答率が1.2%で、全国の前年比と同程度である。 ●平行四辺形を作図する問題の正答率は43.9%で、全国の前年比を14.4ポイント下回った。 ●「角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ。」の正答率は67.1%で、全国の前年比を12.2ポイント下回った。	・平行四辺形やひし形、台形など、各々の四角形の性質について理解できるようにしていく。その上で、各々の四角形のかき方を考え、コンパスや分度器などを使って正確に作図することができるよう、繰り返し指導を行う。 ・分度器を用いて図形の角の大きさを正確に測定できるようにしていく。その際、直角の大きさが90度であることや半回転した大きさが180度になるなど、図形の角の大きさの見当を付けながら測定できるようにする。 ・二つの角の大きさが等しいかを調べる際には、互いに縮図や拡大図の関係にあるかどうかを確認させるようにする。また、補助線を引いたり、直線の傾きを見たりすればよいことに気付くことができるようにする。
C 測定	●本領域の正答率は52.4%で、全国の前年比を2.4ポイント下回った。 ○「はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる」の無解答率は3.7%で、全国の前年比より0.5ポイント低い。 ●「はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる」の正答率は57.3%で、全国の前年比を3.6ポイント下回った。	・はかりの目盛りを正確に読み取れるようにしていく。はかりを使う際には、どれだけの重さまで量ることができるかや1目盛りが表す重さはいくつかなどに注意しながら計測していく。 ・日常生活における体重の測定や食品の買い物などで、計器を用いてももの重さを測定することを見聞させる経験や、実際に1kgの重さの具体物を持ち上げるなどの体験を通して、基本的な量の大きさについての感覚を豊かにしていく。
C 変化と関係	●本領域の正答率は54.5%で、全国の前年比を3.0ポイント下回った。 ○「使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのか調べるために、必要な事柄を判断し求める方を書く」の正答率は47.6%で、全国の前年比と同程度であった。 ●「10%増量したつめかえ用のハンドソープの容量が、増量前の何倍かを調べる」の正答率は35.4ポイントで、全国の前年比を5.5ポイント下回った。	・公式や示されている数何を表しているかなどを確認し、問題解決のために必要な情報を選択することができるようにしていく。その際、基準量や比較量を明確にできるようにしていく。 ・実生活と結び付けながら学習に取り組みせ、百分率が日常生活の中で用いられている割合の便利な表現であることに気付くことができるようにする。
D データの活用	●本領域の正答率は57.1%で、全国の前年比を5.5ポイント下回った。 ○「新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ。」の正答率は80.5ポイントで、全国の前年比と同程度である。 ●「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる。」の正答率は67.1%で、全国の前年比を11.6ポイント下回った。	・表やグラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしていく。その際、数値などの根拠を明確にして説明できるようにする。 ・好きな遊びや野菜の収穫量などを調査して表やグラフにまとめるなど、実生活と結び付けながらデータを整理し、考察することができるようにしていく。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	48.2	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	44.3	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	45.7	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	58.3	67.9	66.7
観点	知識・技能	50.8	57.5	55.3
	思考・判断・表現	51.8	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○本領域の正答率は48.2%で、全国の正答率を1.5ポイント上回った。 ○「乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。」の正答率は62.2%で、全国の正答率を7.1ポイント上回った。 ●「ペルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く。」の正答率は73.2%で、全国の正答率を4.8ポイント下回った。また、無解答率が7.3%と、全国の無解答率より4.6ポイント高い。	・領域全体を通して忘れている内容が多く、エネルギーに関する学習の復習を意図的に行っていく。 ・選択式でなく、自分で記述して解答する問題の無解答率が高い。諦めずに記述の問題にも取り組めるよう、日々の授業の中で少しずつ達成感を味わわせ、参加の意欲を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	●本領域の正答率は44.3%で、全国の正答率を7.1ポイント下回った。 ○●水の状態変化についての基本的な知識は理解できているが、温度と関連付けて水の変化を考えることに課題が見られる。 ●「水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く。」の正答率は46.3%で、全国の正答率を4.3ポイント下回った。また、無解答率が14.6%と、全国の無解答率より8.5ポイント高い。	・実験の結果を予想する際に、根拠を考える時間を確保し、結果と照らし合わせて正しく理解できるようにしていく。 ・「粒子」を柱とする領域に関しては、目に見えにくい単元が多いことから、デジタル教材やイメージ図を取り入れながら確認し、正しい知識の定着を図っていききたい。
「生命」を柱とする領域	●本領域の正答率は45.7%で、全国の正答率を6.3ポイント下回った。 ○「ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ。」の正答率は51.2%で、全国の正答率を5.6ポイント上回った。 ●「ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ。」の正答率は50.0%で、全国の正答率を12.0ポイント下回った。	・比較して実験や観察をするときに、条件を変えるものと変えないものを確認し、実験の結果とその後の考察を関連付けてまとめていく。 ・植物の栽培や昆虫の飼育などの、体験活動を多く取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	●本領域の正答率は58.3%で、全国の正答率を8.4ポイント下回った。 ○「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、実験の方法を発想したり、他の条件での結果を予想したりして表現する。」の正答率は、全国の正答率と同程度であった。 ●「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く。」の正答率は47.6%で、全国の正答率を12.9ポイント下回った。	・自分の考えを記述したり、発表したりして、意見を交流する活動を意図的に多く取り入れていく。 ・学習内容を生活に結び付けて考えさせたり、体験的な活動を取り入れたりしながら、知識の定着を図る。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」について、肯定割合が98.8%と、全国の肯定割合を1.6ポイント上回った。一人一人が、いじめはよくないことだと自覚していることがうかがえる。今後も、道徳科の授業においていじめ問題について考えたり、いじめゼロ強調月間の取組や学校生活アンケート等を活用したりすることで、いじめに対する認識を深め、友達と互いに協力し合える行動実践への意欲を高めさせたい。

○「国語の勉強は好きですか。」について、肯定的割合が61.7%と、全国の肯定割合を3.4ポイント上回っている。「国語の授業の内容はよく分かりますか。」について、肯定的割合は81.5%で全国とほぼ同じである。「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」について、肯定的割合は97.5%で、全国の肯定割合を7.1ポイント上回っている。これらのことから、国語の学習に対する関心が高く、授業が分かると実感できている児童が多いことが分かった。語彙を豊かにしたり、話合いの基礎を学んだりする国語の学習は、他の教科の基盤にもなるので、楽しみながら学習に取り組めるよう、今後も指導を工夫していきたい。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」について、週一回以上使用したと回答した児童は90.1%であり、全国の肯定割合を0.4ポイント上回った。一方で、ICT機器の活用(自分のペースで理解しながら学習を進めることができる・楽しみながら学習を進めることができる・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる)についての項目では、全国の肯定割合から9.0ポイント以上低い結果となった。このことから、児童がPC・タブレットなどのICT機器を授業で使用する機会はあるものの、活用していく力が弱いことが分かった。今後は、国語や総合的な学習の時間などの授業を通して、プレゼンテーションソフトを活用して資料をまとめたり、発表のために自分の考えを整理したりする機会を増やしていきたい。また、一人一台端末を日常的に使うことで、より短時間で多くの情報を得たり、友達との意見を共有したりすることができるように気付かせながら、自分の意見をさらに広げられるように指導していきたい。

●「算数の勉強は好きですか。」及び「理科の勉強は好きですか。」について、肯定割合がそれぞれ45.7%、63.0%であり、全国の肯定割合と比較し、算数は12.2ポイント、理科は17.1ポイント下回った。「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」について、肯定割合が92.6%で、全国の肯定割合を1.0ポイント上回ったものの、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」について、肯定割合は66.7%で、全国の肯定割合を13.2ポイント下回った。理科の授業では、実験の結果から得られた性質や働き、規則性などを活用したものづくりを充実させることで、興味・関心をもたせていきたい。また、自然の事物や事象についての問題を投げ掛けたり、疑問をもたせたりするなどして、日常生活との関連を意識させるとともに、自然を愛する心情を養っていききたい。

宇都宮市立横川西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学ぶ楽しさを実感し、確かな学力と学びに向かう力を育成する授業づくり	・宇都宮モデルを基にした授業のデザインの工夫 ・個に応じたきめ細やかな指導の工夫・充実 ・学びに向かう学級集団づくり	・「分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」について、肯定割合が82.8%で、全国の肯定割合を1.1ポイント上回った。
・基礎・基本の定着を図る指導の徹底	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施 ・家庭学習への意欲向上と習慣化(家庭学習強化週間・「けやきツツチャレンジ」)	・「学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間」について、1時間以上と回答した児童は54.3%で、県の割合を0.3ポイント上回った。 ・漢字の読み書きや計算に関して、定着に個人差が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・PC・タブレットなどのICT機器を授業で使用する機会はあるものの、活用していく力に課題が見られる。	・ICT機器を有効活用した、協働的な授業の実践	・国語や総合的な学習の時間などの授業を通して、プレゼンテーションソフトを活用して資料をまとめたり、発表のために自分の考えを整理したりする機会を増やしていく。 ・特別活動(委員会活動、学級活動等)の中でも、一人一台端末を使用させていくことで、より短時間で多くの情報を得たり、友達との意見を共有したりすることができるように気付かせるとともに、ICT機器についての技能を高め、より効果的に活用できるようにしていく。